

【風そよぐ 5月】

京都市立下京中学校

校長 安居 昌 行

「話す」は「放す」 「聞く」は「効く」

風そよぐ5月。「志の式」「入学式」があり、新しい年度が始まったと思っていましたが、あっという間に1か月が経ちました。この間、三年生は修学旅行、全国学力調査と続き、また、全学年ともに教科学習も始まりました。一年生は教科担任制の授業や学習内容の変化に新鮮な気持ちと一生懸命対応しようと頑張っている姿が見られます。また、体育系部活動に参加している生徒は春季体育大会もあり、忙しい毎日を過ごしたことと思います。

さて、連休も明けると家庭訪問も終了し、1日7時間授業も本格的に行われます。月末には定期テストもあります。一時間一時間の授業を大切にするとともに、予習復習もしっかりやってほしいと思います。朱子学という学問の祖である朱熹^{しゆき}という人の言葉に

「少年^{しょうねん}老^{おい}い易^いく学^が成^{なり}り難^{がた}し 一寸^{いっすん}の光陰^{こういん}軽^{かろ}んずべからず」 というのがあります。

時間を無駄にしていけないということです。また、サッカーなどのスポーツの世界では中学生前後の年齢を“ゴールデンエイジ”と呼び、この時期に基本的な技術を技として身につけるかどうかはその後の成長を大きく左右するともいわれています。ぜひ、様々なことにもチャレンジしてください。

一方、中学生の時期は思春期とも呼ばれ、なんとなく不安であったり、悩みがあったりする時期でもあります。特に中学校生活や新しい学年にちょっと慣れてきた5月には、不安や悩みをもつ人も増えるようです。そこで、生徒の皆さんや保護者の皆さんには、私の恩師の次の言葉を紹介したいと思います。

「悩みや苦しみを『話す』ことは、悩みや苦しみを『放す』ことに通じます。相談者の話にじっと耳を傾けて『聞く』ことは、『効く』ことに通じます。」

(『生きかた 死にかた』友久久雄)

友だちや先生、家族に思いや悩みを話すこと、それは自分の気持ちを解放（放す）することにつながる。そして聞くことは、相手にとっては薬が効くような効果があるのではないのでしょうか。中学生活、新しい学年にちょっと慣れてきたこの時期、忙しい生活、時間に追われる生活ではありますが、ぜひ、友だちと家族とゆっくり話をする時間をもってほしいと思います。



〈修学旅行 沖縄伊江島にて〉